ALUMNI NEWS, FACULTY OF AGRICULTURE, TOHOKU UNIVERSITY

東北大学農学部同窓会会報

第106号　2023年 10 月 1 日

http://alumni.agri.tohoku.ac.jp/

目　次

◆〈特集〉同窓会長就任にあたって …… 2
◆〈特集〉令和5年春の叙勲御受章お祝い! …… 3
◆ホットライン …… 5
◆支部だより …… 6
◆各コース告知板及び人事往来 …… 6
◆令和4年度卒業者及び修了者名簿 …… 9
◆逝去を偲んで …… 11
◆幹事会報告 …… 12
◆令和5年度農学部同窓会役員紹介 …… 13
◆会計報告 …… 14
◆同窓会事務局からのお知らせ …… 15
◆令和5年度同窓会総会のご案内 …… 16

Facebook開設しています

オープンキャンパス風景　キャンパスモール（令和5年7月27日, 撮影:金子　淳）

特集

同窓会長就任にあたって

東北大学大学院農学研究科
阿部　敬悦

東北大学農学部同窓会会員の皆様方におかれましては、益々、ご健勝のこととお慶び申し上げます。2022年3月に学部長・研究科長を任期満了で退任いたしまして、学部内ルールに従い、前会長の牧野周名誉教授の後任として同窓会会長の任を拝命することとなりました。微力ではございますが務めさせていただきますので、よろしくお願い申しあげます。農学部・農学研究科は、2022年4月より新学部長・研究科長である北澤春樹教授を中心とした新執行部体制で、国際化や分野融合などに果敢に挑戦する部局運営を通じて世界トップ水準の教育研究を目指しておりますので、皆様方のなお一層のご支援をお願い申し上げます。

2017年に農学部・農学研究科が青葉山に移転して、7年目に入りました。その間、2020年には世界的なCOVID19の感染拡大により、経済活動や市民生活の混乱が始まり、日本においても本年5月のCOVID19の感染法上の5類移行により、ようやく通常の市民生活が戻ってきたところです。一方で、2022年の2月にはウクライナ侵攻が始まり、世界情勢の混迷が深まっている状況にあります。世界の農林水産・食品の市場は2015年の890兆円から2030年には1360兆円に成長すると予想され、特に人口増加の著しいアジア圏の市場は2015年の420兆円から2030年には800兆円に達すると見込まれており、成長の中心と言えます（農林水産政策研究所予測）。日本政府も世界市場の成長を我国の農林水産・食品産業の成長に取り込むべく、海外輸出政策を強化しておりますが、昨年のウクライナ侵攻に端を発してエネルギーおよび食糧資源の国際調達は、サプライチェーンにおける国際分業の深化・偏在化もあって、大きな課題に直面しています。従来、国内の農林水産・食品産業は高齢化・少子化による労働人口の減少と産業自体の低生産性の問題を抱えており、国内産業としての課題と世界市場への挑戦という二つの大きな課題への対応を迫られている状況にあります。国内課題への対応では、スマート農業技術や農業における再生エネルギー技術の研究開発、CO_2排出を抑制しつつ食品や化成品を生産するための技術開発、データサイエンスの農学領域での利活用が産官学の各所で進められており、社会実装が求められています。

これらの社会情勢に対応すべく、農学研究科では2022年度に大学院改組を行い、学部教育体制である生物生産科学科（4コース：植物生命科学、動物生命科学、海洋生物学、農業経済学）と応用生物化学科（生物化学、生命化学）の2学科6コース体制と連動させる形で、生物生産科学専攻（4基幹講座：植物生命科学、動物生命科学、水圏生産科学、農業経済学）と農芸化学専攻（2基幹講座：生物化学、食品天然物化学）の2大専攻体制に移行しました。それに伴い、農工連携を中心としたスマート農業や再生エネルギー関連の講義、知的財産とその産業の利活用に関する講義、英語による講義を新増設するなど大学院のカリキュラム改変も行いました。特に社会実装対応では、従来からある「附属複合生態フィールド教育研究センター」に加え、専攻横断的な研究センターとして、スマート農業や再生エネルギー活用・震災からの復興を担当する「次世代食産業創造センター」、2024年度に稼働する東北初の放射光施設ナノテラスの農学領域での産学連携活用を担当する「放射光生命農学センター」、抗生物質や合成農薬の使用低減に対応する「食と農免疫国際教育研究センター」の3センターが設置されました。全教員がこれら新設3センターのいずれかに所属する形で積極的に社会連携・産学連携を実施しております。

3センターを中心とした社会連携・産学連携活動では、研究科長直属の戦略統括部門に専属のUniversity Administratorを3名（1名は人事交流で農林水産省へ出向）、補佐員1名を配置して、戦略統括部門長（仲川清隆副研究科長）と共に3センターの運営メンバーと緊密に連携して連携活動や外部資金獲得活動を積極的に行っております。運営費交付金の減少に伴い、外部資金獲得は部局運営において極めて重要な課題となっていることから、戦略統括部門主導で学内外の産官学との多様な組織的連携によるプロジェクトの企画・実行能力の向上を図っております。公的研究資金、民間共同研究資金のみならず、寄付金も含めた外部資金獲得の面でも同窓の皆様方のご支援を賜りたくお願い申し上げる次第です。東北大学基金のHPに入っていただきますと、農学部・農学研究科への寄付

のページ（http://www.kikin.tohoku.ac.jp/project/support_the_department/agri）がございますので、ご活用いただければと存じます。

2022年には農学部創立75周年を迎え、同年10月2日に青葉山新キャンパスにおいて創立75周年記念式典が挙行され、2022年度を通して3センター各々が75周年記念シンポジウムを開催し、学内外の多くの方々にご参加いただきました。社会変化の速度が加速する中で農学部・農学研究科における教育研究や社会連携・産学連携への要請も大きく変化しており、これらの75周年記念事業を通じて、北澤研究科長の下で部局一丸となってスピード感を持って課題に挑戦する決意を学内外の皆様方に発信いたしました。同窓の皆様におかれましては、今後とも農学部・農学研究科に対する一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。皆様のご健勝と益々ご発展を祈念申し上げ、新任の挨拶といたします。

特集　令和5年春の叙勲御受章お祝い！

令和5年4月29日に春の叙勲が発令され、同窓生で、農学研究科名誉教授の山谷知行先生、宮澤陽夫先生のお二人が、瑞宝中綬章を受章され、同5月12日、国立劇場大劇場にて叙勲勲章伝達式が執り行われました。（瑞宝中綬章は、公共的な職務の複雑度、困難度、責任の程度などを評価し、重要と認められる職務をはたし成績をあげた人に対して授与されるものです：勲章の授与基準による）。お二人の受章理由、御略歴は以下の通りでございます。御受章誠におめでとうございます。益々のご活躍を祈念いたします。

◆山谷　知行　名誉教授（植物栄養学・土壌学）

■受章理由

植物栄養学・土壌学及び植物分子生理学の分野において、コメの生産性や品質を規定するイネの窒素利用の分子機構や効率向上に関する先駆的かつ広範な学術的業績をあげて、食糧不足解決や持続的環境低負荷型農業展開の礎となる分子的基盤の構築に対する貢献

〈御略歴〉

東北大学農学部農芸化学科卒業、東北大学大学院農学研究科博士課程修了　農学博士

岡山大学農業生物研究所助手（1980-）、東北大学農学部助教授（1988-）、同教授（1992-）、東北大学農学部長・研究科長（2010-2013）、東北大学総長補佐（2012-2013）、2015年より東北大学名誉教授

東北大学農学部同窓会長（2014-2016）

●研究分野・論文・国際会議

植物分子栄養学、原著論文・著書・総説、186件、特別・基調講演・オーガナイザー32件

●社会活動

理化学研究所植物科学研究センター

日本学術振興会学術システム研究センター主任研究委員

日本土壌肥料学会副部門長・部門長・欧文誌（SSPN）編集委員

日本植物生理学会理事・評議員・編集実行委員・欧文誌（PCP）編集委員・編集委員長

日本農芸化学会評議員

その他、科学技術振興機構・文部科学省・農林水産省・国立大学・国内外学会関連など、60件

●受賞歴

日本土壌肥料学会賞（1999）、日本農学賞（2015）、紫綬褒章（2017、［土壌学・植物栄養学］）、瑞宝中授章（2023）

◆宮澤　陽夫　名誉教授（食品学）

■受章理由

食品学の分野において、食品や生体の過酸化脂質の高精度定量システムを確立し、食品の酸化劣化の防止、ヒトの加齢老化、脂質代謝異常、高血糖、癌、認知症への食品抗酸化成分による防御機能の研究を進め、食品による健康増進と疾病予防のための新方法論の確立と機能性研究を先導的に展開し、特定保健用食品を含む多くの新食品開発に対する貢献

〈御略歴〉

東北大学大学院農学研究科食糧化学専攻博士課程修了　農学博士

東北大学農学部食品学講座（金田尚志教授）助手（1982-）、東北大学農学部（藤本健四郎教授）助教授（1987-）、文部省長期在外研究員（タフツ大学ヒトの老化に関する栄養研究所、ボストン、1995-1996）、東北大学大学院農学研究科機

能分子解析学分野　創設教授（1998-）、2013年より、東北大学未来科学技術共同研究センター「戦略的食品バイオ未来産業拠点の構築」プロジェクトリーダー・教授、2015年より東北大学名誉教授、東北大学大学院農学研究科「食の健康科学」ロッテ財団寄附講座　教授（兼任、-2020）、2020年より、東北大学リサーチプロフェッサー

●研究分野・論文等

食品学・食糧化学、原著論文395報、著書・総説・解説・特許338編（Google scholar被引用数19123、h-index 70）

●社会活動

国際生命科学研究機構（ILSI Global、ワシントン）常任理事・共同議長
国際栄養科学連合（IUNS、ロンドン）理事
国際こめ油会議（ICRBO、バンコク）会長
国際メイラード反応学会（IMARS、パリ）会長
アジア栄養学会連盟（FANS、ジャカルタ）会長・常任理事
日本学術会議（SCJ）連携会員・特任連携会員
日本国際生命科学研究機構（ILSI Japan）会長・理事長
日本メイラード反応学会　会長
日本栄養・食糧学会　会長・名誉会員
日本農芸化学会　監事・相談役
日本油化学会　副会長・フェロー
日本食品分析学会　副会長
日本ビタミン学会　理事
日本食品科学工学会　理事
バイオインダストリー協会　機能性食品研究会　会長
飯島藤十郎記念食品科学振興財団　理事
安藤スポーツ・食文化振興財団食創会　審査委員長
食糧・農業分野における震災復興に向けた専門家会議（東北農政局）　座長
東北地域農林水産・食品ハイテク研究会（東北農政局）会長
東北米粉利用推進連絡協議会（東北農政局）　会長

●受賞歴

農芸化学奨励賞（1988）、日本油化学会賞（2000）、アサヒビール生活科学研究賞（2003）、日本栄養・食糧学会賞（2009）、飯島食品科学賞（2009）、安藤百福賞（2010）、日本農芸化学会賞（2014）、日本ビタミン学会賞（2015）、ロッテ重光学術賞（2015）、紫綬褒章「食品学研究」（2015）、東北大学基金功労賞（2022）、瑞宝中綬章「教育研究功労」（2023）

◆受章記念寄稿

春の叙勲　瑞宝中綬章を受章して

東北大学 リサーチプロフェッサー　東北大学 名誉教授
東北大学未来科学技術共同研究センター
「戦略的食品バイオ未来産業拠点の構築」プロジェクトリーダー・教授
宮澤　陽夫

令和5年度春の叙勲で瑞宝中綬章を受章いたしました。受章理由は東北大学で教授として永年に渡り重要な職務をはたし成績をあげた「教育研究功労」です。

8年前の平成27年に春叙勲で紫綬褒章を戴きましたが、私の過去の教育研究内容についてはこの時の本同窓会会報（第91号、平成28年3月25日）に記載されておりますので、ここでは未来科学技術共同研究センター（NICHe）で新たに取り組んでいる、ある研究をごくごく簡単にご紹介します。

ヒトは一度の食事で数千分子種を同時に体内に取り込みます。健康なからだの維持や疾病予防に〝食〟の多分子種・同時摂取がどう役立っているのかはほとんど分かっていません。それはこれを理解するに必要な手法が未だ開発されていないからです。既存の食品学や栄養学の教科書にも記載されていません。これら膨大な種類の分子種がからだの中でどのように相互干渉しあい〝食〟としての本来的機能を発揮しているのか、この理解は私が学生の頃からの〝食〟にまつわる永年の大きな課題です。例えば、あるビタミンが細胞に取り込まれ生理機能を発揮するには、同時摂取した他の成分により膜のトランスポーターや受容体が活性化される必要があります。この解決には、膨大な分子種からなる〝食〟の価値評価を可能にする、新たな解析ツールの構築が必要です。従来のAI技術、例えば、スーパーコンピュータ（SPC）のみでは解析に膨大な時間と多大な経費を要します。そこで宮澤研では、SPCと共に短時間で大量のデータを低費用で計算可能な量子コンピュータを合わせて用いる〝AIディアトロフィ（ギリシャ語で食べ物や栄養の意味、「量子栄養学」と命名）〟に取り組むことにいたしました。これにより、〝食〟の真の価値の理解と動物実験に代わる機能性／安全性評価系が構築されるでしょう。この予測AIイジングモデルを活用し、新規食材や新たな生理機能の発掘、食材の組み合わせ効果、日本食の健康有益性の検証、望まれる食組成を有する農林水産物の育種、食の安全性評価、さらには〝食〟による疾病予防・治療が可能になるでしょうし、人生100年を支える新たな食品開発の重要な技術になるでしょう。この事業は現在、国際生命科学研究機構（ILSI Japan）10社の食品企業との〝AIディアトロフィ研究〟として、また東北大学基金サン・クロレラ量子栄養学研究部門としてNICHe宮澤研で進められています。

～同窓生からのメッセージ～ ホットライン

反省ばかりの人生
～遊ぶからこそ気づくことがある

1982年（昭和57年）卒
髙島英也
（学校法人酪農学園理事長、株式会社東邦銀行社外取締役）

1．何歳になっても…

紀元前400年頃、ソクラテス曰く、『無知の知。自分が何もわかっていないことを自覚せよ』と。そして私。サッポロビール㈱にビール醸造技術者として入社後3年目の頃。ようやく会社の中での自分の存在がわかってきた頃に、6年先輩から、『お前のような奴を給料泥棒と言う』、『悔しかったら殴っていい』と言われ、ふたりだけの工場のロッカー室で、泣きながら先輩を殴ったあの頃。ほんとうに何もわかっていなかった。

それから人生いろいろあって…。先日、尊敬する会社の大先輩から、『お前の社長時代を振り返ると、全くの期待外れだった。』と。悔しくて悲しくて2週間くらいはそのことで頭が一杯になっていたのが〝つい先日〟のことだ。

63歳になっても、依然として無知な自分がここにいる。だから、死ぬまで自己研鑽を継続せねばならないと自分を奮い立たせている毎日である。

2．不登校の生徒たちと1年間過ごして

サッポロビール㈱の社長を退任後、2021年5月から、縁あって東京都内の某施設に土日を中心にボランティアとして通った。約1年間、それまで知らなかった現場に計37回通った。そこでの私のニックネームは『でや』。そこで、中3生の不登校生P子と出会った。

それまで『高等学校にも行かない』と、冷たい表情で絵ばかりを描いていたP子が、ある時を境に、『でやさん、作文ってどう書くの？ 教えて』、『面接の練習をしてほしい』と言ってくるようになった。

3．気づきが生まれる機会

P子の変貌を振り返ると、そのきっかけは間違いなく近くの公園での〝鬼ごっこ〟、〝遊びの機会〟だった。昼前に、天気が良ければ生徒たちと近くの公園で1時間ほど遊ぶ。不登校の子供たちは、その多くが体力不足。その日は5名ほどの不登校生が参加していたが、うち一人の男子生徒は早々と転んでひざを擦りむきリタイア。ところがP子だけは様子が違う。瞬発力が違う！逃げる時の構えが違う！

『おい、P子！ お前何か運動やっていたろう！？』マスクの下で　P子の顔が〝意外にも〟ほころんだ。『お母さんと小学校5年生までバレーボールをしていた』と言う。（どうして不登校になっちゃったのかな…と思いを巡らす私。）

その時からだ。まずはP子が、『〝でや〟さんから不得意科目を習いたい』と、施設スタッフに自分から意思表示（非自己開示）してきた。しばらく分数計算の学習を繰り返していた時に、『ねぇ！ でやさん、今日のこのメモ、全部もらって帰っていい？』、『分数のこと、わかったかも！』と。そして翌週、『高等学校に行きたい。学び直さなきゃ。』と。私は思わず『涙』…。

4．植物栄養研究室の木製テーブルを囲んでの〝遊び〟が私に沢山の気づきをくれた

植物栄養研究室の入口を入ってすぐのところに大きな木製のテーブルがあった。先生、先輩、同級生、他の研究室の方々、そのテーブルを囲んで色んなヒトと出会い、色んな話を伺った。叱られもしたし、同級生と口論もしたし、何よりも大いに笑った。『体育会ラグビー部を続けたいなら、提出物は3日前。守れなかったら、その時はやめてもらうよ。』と卒論指導の先生（当時、助教授）から念を押されたのも、そのテーブルで酒を飲んでいた時だった。まさに、そのテーブル周辺の空間は、自由闊達、時に真剣なコンフリクトが起きる余白だらけの遊びの場、気づきの場だった。そして、その先生が末期がんに罹患されているとのこと、『あまり先が無いから来ないか』との連絡を頂戴し、驚いて研究室に駆け付けたのが二十数年前の11月。その時も、あの木製テーブルが私を迎えてくれた。『葬儀はしない。墓はつくったからお参りには来てくれよ』と笑顔で話す先生。先生はその年の12月29日に他界された。私が出した年賀状を見ることもなく…。ほんとうに沢山のことを教えてくれたあの木製テーブルは、私の記憶の中に手触りの感触と共に残っている。感謝！

支部だより

北海道支部

北海道支部・北海道翠生会は、令和5年5月27日（土）に北海道情報大学札幌サテライト（札幌市中央区北3西7）で、今年度の総会・懇親会を開催しました。

新型コロナウイルスの感染拡大のため、一堂に会しての開催は4年ぶりとなりました。出席会員は札幌圏を中心に、遠くは函館から今野宮夫さん（農昭45卒）が駆けつけ、12名が出席しました。

総会は、支部長挨拶の後、前年度の活動報告と収支報告、会計監査報告、今年度の活動計画のほか、役員選任について、原案のとおり承認されました。

続いて、ご多忙の中ご来道くださいました北澤春樹農学研究科長から、「農学研究科の現況について」と題してご講話をいただきました。特に、昭和の世代の卒業生は青葉山移転後のキャンパスの様子や世界に向けて発展を続ける農学研究科の様子には大いに驚嘆させられました。

その後の懇親会では、会員の近況報告のほか、会員の席を回られた北澤研究科長から直接にお話をお伺いするなど、話題が尽きないままに予定の時間をかなり過ぎてお開きとなりました。

来年度の総会・懇親会も定例としている5月の第4土曜日（5月25日）に開催を予定しています。また、毎年秋には札幌市で全学部が参加する東北大学北海道同窓会連合会の総会・懇親会、記念講演も行われますので、ぜひご出席いただきたく思います（今年度は11月10日（金）の予定）。

なお、新たな役員はこの会報に別記のとおりです。引き続きよろしくお願い申し上げます。

（報告：對馬一修）

各コース告知板及び人事往来

植物生命科学コース（旧農学科）

最初に人事の異動について報告します。令和4年10月に環境適応植物工学分野に五十嵐圭介助教が着任しました。また、令和5年4月に栽培植物環境科学分野の田島亮介助教が准教授に昇任されました。

新型コロナウィルス感染症の影響により、前年度に引き続き学事やコース親睦行事も大幅な変更を余儀なくされましたが、徐々にコロナ前に戻りつつあります。講義も対面中心に戻ってきています。学生実験も予定通り実施できました。農場実習は、川渡への日帰りで行われました。4月の3年生歓迎会は中止となりましたが、11月には3年生を交えた研究室対抗の平野杯（今回は新種目ドッチビー）を青葉山体育館で実施することができ、環境適応植物工学分野が優勝しました。令和5年2月に修論の審査会、卒論発表会が行われ、3月末には無事修了、卒業を迎えることができましたが、卒論発表会後の懇親会は4年連続の中止となりました。

令和4年度の学生の受賞に関しては、作物学分野D3のYe Ronglingさんが総長賞、森林生態学分野M2の本宮万愛さんと植物病理学分野D3のAbebe Derib Alemuさんが研究科長賞、植物遺伝育種学分野4年の本保風夏さんが農学部長賞を受賞されました。また、応用昆虫学分野の千葉勇輝さんが化学生態学の国際会議ISCE-APACE 3rd Joint MeetingでAPACE Student Travel Awardを受賞されるなど、非常に多くの学会での優秀発表賞の受賞がありました。

さらに、牧野知之教授（土壌立地学分野）が第67回（2022年度）日本土壌肥料学会賞を受賞され、陶山佳久教授（森林生態学分野）が第23回Ecological Research論文賞を受賞されました。

農業経済学コース（旧資源環境経済学）

〈環境経済学〉当研究室に大学院生として在籍し、令和3年9月に博士後期課程を修了された趙心童さんが4月から助教として着任しました。また、同じく当研究室に大学院生として在籍し、令和5年3月に博士後期課程を修了された孟源さんも4月から助教として着任しました。石井圭一教授は令和5年9月に本学の青葉山コモンズ（農学部・農学研究科講義棟）を会場に開催された「第4回 有機米生産システム国際シンポジウム（4th International conference Organic Rice Farming and Production Systems）」で中心的な役割を担いました。井元智子准教授は環境評価研究を精力的に推進しています。豆野皓太助教は生物多様性や生態系と経済をキーワードにした多彩な研究を精力的に進めています。

〈地域資源計画学〉角田毅教授は農業経営継承と農業法人の雇用管理の研究に取り組んでいます。米澤千夏准教授は陸域と海域での多様なリモートセンシング研究を積極的に推進しています。Mageziは Eustadius Francis 助教はマイクロクレジットや農業の機械化を軸にアフリカの農業発展に関する研究を進めています。

〈国際開発学〉冬木勝仁教授は令和5年度も引き続き学科長、学生委員長として農学研究科の教務運営に精励するとともに、評価委員長として農学部・農学研究科の学内外での評価向上に努めています。また、複数の研究科にまたがる大学院プログラムである災害科学・安全学国際共同大学院やヒューマンセキュリティ国際教育プログラムの運営委員を冬木教授が担っており、鳴原敦子さん（学術研究員）が教育・研究活動、運営をサポートしています。Minakshi Keeni 助教は農村におけるジェンダー研究のため、積極的に海外調査を行っています。

〈農業経営学分野〉伊藤房雄教授は令和5年度も引き続き農学研究科戦略統括部門アドバイザーとして農工連携・医農連携等の推進に奮闘中です。唐冠琰助教は伊藤教授の研究・活動を支えるとともに、女性農業経営者の動向に焦点を合わせた研究を継続して進めています。

〈名誉教授〉木谷忍先生が令和5年1月にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。酒井惇一先生、大鎌邦雄先生、工藤昭彦先生、両角和夫先生、長谷部正先生、米倉等先生、盛田清秀先生は皆様お元気にご自宅で趣味と研究に勤しんでおられるようです。

動物生命科学コース（旧応用動物科学科）

2023年度の農学部動物生命科学コースの9分野は、農学研究科生物生産科学専攻動物生命科学講座の所属となりました。また、2023年4月1日に東北大学農学研究科と共立製薬株式会社は「動物粘膜免疫学共同研究講座」を新設し、家畜・家禽・養魚の粘膜組織に備わる免疫機能を向上させるための素材（例：微生物・代謝物）の開発に取り組んでいます。同講座には、野地智法教授、秋山元英客員教授、古川睦実助教、平川良太特任助教がご着任されました。新しい講座で、これまで以上に活発に研究教育活動を進めて参ります。

人事関係では、2022年10月1日付で動物食品機能学分野に西山啓太准教授、動物生理科学分野に芳賀聡准教授ならびに金民知助教がご着任されました。2022年12月1日付で、動物栄養生化学分野の徳武優佳子助教が、信州大学農学部動物栄養飼料科学分野にご栄転されました。また、2023年1月1日付で、動物食品機能学分野に生井楓特任助教がご着任されました。2023年3月31日付で、動物微生物学分野の安藤太助助教と動物生理科学分野の萩野顕彦助教が退官され、動物生理科学分野の金民知助教が任期満了となりました。皆様の新天地での御活躍を祈念しております。また、2023年4月1日付で動物環境管理学分野に村越ふみ助教（学際フロンティア助教 兼任）、動物栄養生化学分野に古川恭平特任助教、動物機能形態学分野に平川良太特任助教が着任しました。その後、2023年7月1日付で、動物栄養生化学分野に古川恭平特任助教が名古屋大学農学研究科動物栄養科学分野にご栄転されました。

海洋生物科学コース（旧水産学科）

海洋生物科学コースではこの3月に30名の卒業生が誕生しました。大学院では海洋生物科学コースに関係する3専攻（資源生物科学専攻、応用生命科学専攻、生物産業創成科学専攻）から修士13名、博士2名の修了者を送り出しました。これら3専攻は現在、生物生産科学専攻と農芸化学専攻の2専攻にまとめられています。海洋関係の研究室は学部では生物生産科学科海洋生物科学コース、大学院では生物生産科学専攻水圏生産科学としてまとめられています。

職員では水圏動物生理学研究室の教授を務めてこられました尾定先生と水圏資源化学で教授を務めてこられました落合芳博先生が3月をもって定年でのご退職となりました。海洋生物科学コースの教育研究にご尽力いただきありがとうございました。また、水圏動物生理学研究室で准教授を務められてきた高橋計介先生が石巻専修大学の教授として転出され、4月着任予定となっております。新天地でのご活躍を祈念いたします。また、4月に水圏動物生理学研究室に鵜沼辰哉先生が、海洋生命遺伝情報学には横井勇人先生が、グローバル農学教育ユニットには Cheryl Lynn Ames 先生がそれぞれ教授として着任されました。海洋生物科学コースでのご活躍を祈念しております。

生物化学コース（旧農芸化学科）

はじめに人事往来についてご報告いたします。令和5年3月に植物細胞生化学分野の宮尾光恵教授と生物有機化学分野の桑原重文教授が定年によりご退職されました。令和5年6月に植物栄養学分野の石山敬貴助教が退職されました。一方、令和4年10月に東北大学国際放射光イノベーション・スマート研究セン

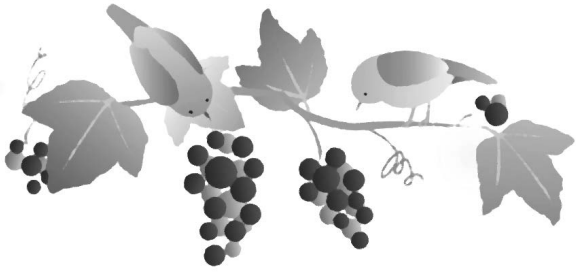
ターの高山裕貴先生が分子生物化学分野の准教授（兼務）に着任されました。また、令和5年4月に堀籠智洋先生が分子生物化学分野の准教授に昇任されました。また、令和5年5月にKhadija Daoudi博士が酵素化学分野の助教に着任されました。

コースのイベントについては、令和5年2月に卒論発表会が対面（農学部大講義室）で行われました。発表会の後に、ご退職される宮尾教授と桑原教授からお言葉をいただき、花束贈呈と記念写真撮影が行われました。また、令和5年3月10日に令和4年度定年退職された宮尾教授と桑原教授に加え、令和2年度に退職された牧野周名誉教授の最終講義が行われました。そのほかの恒例の藤原杯球技大会、卒論発表会後の送別会、新3年生歓迎会は、新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、残念ながら昨年同様中止となりました。

受賞に関する話題としては、山谷知行名誉教授（元植物細胞生化学分野教授、元東北大学総長特命教授、元農学研究科長（平成22～25年度））が、令和5年4月29日に春の叙勲の瑞宝中綬章を受章されました。また、令和4年12月に目黒康洋先生（生物有機化学分野助教）が日本農芸化学会東北支部若手奨励賞を受賞し、令和5年2月に「東北大学プロミネントリサーチフェロー」の称号を付与されました。学生・院生の受賞としては、令和4年9月に分子生物化学分野の上野祐也さん（D2）、酵素化学分野の鈴木優香さん（M1）、応用微生物学分野の高橋尚央さん（M1）の3名がそれぞれ「日本農芸化学会2022年度北海道・東北合同支部会 学生優秀発表賞」を受賞しました。また令和4年12月に応用微生物学分野の薄田隼弥さん（M1）と高橋尚央さん（M1）が日本生物工学会2022年度北日本支部シンポジウムでそれぞれ学生発表賞を受賞しました。また、応用微生物学分野の薄田隼弥さん（M1）は、令和5年3月に『The 19th International Aspergillus Meeting (Asperfest19)』にてNovozymes student poster prizesを受賞しました。令和5年3月に植物栄養学の菊地渉さん（B4）が令和4年度農学部長賞および総長賞、酵素化学分野の鈴木涼太さん（M2）が令和4年度農学研究科長賞および総長賞をそれぞれ受賞しました。

生命化学コース（旧食糧化学科）

令和4年は引き続きコロナの影響があり、川渡実習は、半日の実施で5月に実施された。また、卒論発表会が3月に感染対策を取ったうえで、対面で実施された。令和4年より、大学院が改組され、機能分子解析学分野が食品機能分析学分野、テラヘルツ生物工学分野が、テラヘルツ食品工学分野に名称変更し、学部生命化学コースの各分野（天然物生命化学、栄養学、食品機能分析学、食品化学、テラヘルツ食品工学）は「農芸化学専攻食品天然物化学講座」を構成することとなった。改組後の大学院中間発表会を8月末頃にポスター形式で初めて実施し、副指導教員との研究進捗確認に加えて、学生同士で発表しあうことができ、それぞれが他者の研究への理解を深める機会となった。人事往来として、令和5年4月に、テラヘルツ食品工学分野に石川大太郎准教授が、食品化学分野に服部浩之助教が着任された。教員学生の受賞としては、天然物生命化学分野工藤雄大助教（兼任）が毒素シンポジウム奨励賞を受賞した。工藤助教はその他に日本農芸化学会東北支部奨励賞、2022年B.B.B.論文賞を受賞している。食品機能分析学分野加藤俊治特任准教授がThe 2nd World Congress on Oleo Science Excellent Presentation AwardおよびRSC Advances Awardを受賞した。同分野では所属学生の中冨毅さんが22nd IUNS-International Congress of Nutrition, Young Investigator Excellent Abstract Awardを、加藤千洋さんが、The 2nd World Congress on Oleo Science Student Awardを楠本惟吹さんが、同学会におけるExcellent Presentation Award, Student Awardを受賞した。また日本食品科学工学会第69回大会若手の会において、Isabella Supardi Paridaさんが Outstanding poster awardを、令和4年度日本栄養・食糧学会において、鈴木綾香さんが、学生優秀発表賞を受賞した。また、同分野のIsabella Supardi Paridaさんが、2022年度 日本農芸化学会 東北支部会にて、渡部茜さんが、令和4年度第56回 日本栄養・食糧学会東北支部大会において、それぞれ若手奨励賞を受賞した。また、Halida Rahmaniaさんが、令和4年度の東北大学総長賞を受賞した。



令和4年度 卒業者及び修了者名簿

学部卒業者

植物生命科学コース

●卒業者氏名

石井香帆、石渡翔悟、小内智昱、加藤巧也、萱野航輔、粥川颯人、魏華蓮、木暮息吹、小林碧尊、佐々木温子、菅原遼翔、反田絢也、竹下怜、茶藤あみ、橋本真弥、茨島有吾、福岡研人、藤森圭太、本保風夏、八木奎悟、山口万優子、山下雅大、結城大河

●主な進路

東北大学大学院農学研究科、株式会社リンクス、レック株式会社

資源環境経済学コース

●卒業者氏名

大坪世納、岡田瑚春、北村奈穂、栗山大河、橋本椎奈、横山亮平、和田怜子

●主な進路

㈱アルトナー、埼玉県立大宮商業高校、東北大学大学院環境科学研究科、東北大学大学院農学研究科、農林中央金庫、㈱ポーラなど

応用動物科学コース

●卒業者氏名

内野明依、太田実友子、河井日菜、川崎瑛斗、小林稔、齋藤櫻、坂井創太、佐藤文梨、鈴木芳音佳、増田航大、高井俊太朗、東海林剣太郎、豊吉瑛太、橋本凌河、前川紗佳子、山下司、鵜川諒也、加来建之、境彩花、菅原幹生、池亀凌、劉清嵐、櫻庭大騎、佐竹有理、平野皓陽、宮崎傑

●主な進路

東北大学大学院農学研究科、NHK東北、公務員など

海洋生物科学コース

●卒業者氏名

戸田寛人、相澤俊洋、青木智明、浅沼賢太、安藤日向、大西渉太、笠原大輔、加藤嵩大、金田貴聖、上川智也、権田真梨、坂口あかり、佐藤渉、篠川岳明、中野昂星、新津彩花、西岡天音、後藤拓之、野口英梨、野口慶司、深野直孝、中村祐貴、藤嶋大紀、本田蓮、枡田唯、緑川祥太朗、村上知優、宮川崚大、渡邊菜々子、北條雄大

AMB(Applied Marine Biology)コース

Kei Chloe Tan, Yining Zhao, Sarika Ptsuka

●主な進路

大学院進学（東北大学、東京大学、京都大学、インペリアルカレッジ（英国））、サン情報サービス、JERA、ホクレン農業協同組合連合会、茨城セキスイハイム株式会社、東興ジオテック株式会社、日本甜菜製糖株式会社など

生物化学コース

●卒業者氏名

青西洋平、阿部菜月、荒木聡馬、井澤克秋、和泉創大、井上大輝、浦野さつき、遠田茉由、小澤元、小宅由華、亀岡咲月、菊地渉、後藤悠友、佐藤拓郎、佐藤瞭、鈴木淳人、高橋亜依、高山あまね、竹俣海志、竹本泰、中聖亜、西間木胡桃、西本明生、昼間李梨、星川正太郎、細野芳佳、本島拓巳、牧田蒼生、松畑達哉、三澤恒汰、八尋裕太

●主な進路

大阪大学大学院理学研究科、海外留学（休学）、東北大学大学院農学研究科、東北大学農学部研究生、東北大学大学院生命科学研究科、特許庁など

生命化学コース

●卒業者氏名

新井拓紀、半澤透樹、水島龍汰、山本真瑠、小野寺達也、佐々木怜子、田中皓史、松屋結衣、川北晧平、相原史佳、安西俊輔、吉川智貴、張田颯馬、青沼栞里、芦田康洋、大岩弘隆、谷口恭介、髙田朋之、三浦音和、渡邉菜月、滝口美緒、山田栞菜、本間彩香、佐藤恭平、後藤楓、岡部真未、上野貴大、牛木晴子、武藤優奈、山内晴貴

●主な進路

東京大学大学院、東北大学大学院農学研究科、東北大学大学院生命科学研究科、北海道大学大学院農学研究院、食品分析センターなど

大学院修了者

資源生物科学専攻

●博士課程　前期課程修了

秋山千皓、小野里凌太、河野桜、木村瑳月、齊藤芙紀子、菅原のの、鈴木さくら、中村航太、野本周平、細沼航平、本宮万愛、山田恵太朗、渡部雅史、Nguyen Thi Cam Van, 黄靖雅、竹岡芳成、Nur Syafiqah binti Idris, 監物和、荒川翔太朗、後藤海、鋪田莉佳、信田千春、杉山尚人、長井凜太郎、仲野博斗、渡邊仁奈、田中裕、臼井駿斗、華約、小橋佳教、寺嶋祐大、晴山俊行、深澤航太、松田敏輝、吉田遼平、渡辺直希、渡辺尚人、Yoon Jeongwoong、Lin Huiling

●博士課程　後期課程修了

Abebe Derib Alemu, Hyunjin Jung, Lina Zhang, Ye Rongling, 山本修平、川出佑紀、大鐘智香子、Boris Kaido, 孟源、李雨欣、造田篤、朱庆环、伊藤浩吉、洪珮琪

●主な進路

東北大学大学院農学研究科博士課程後期、経済産業省、特許庁、宮城県庁、埼玉県庁、北海道立総合研究機構、全国農業協同組合連合会、アグロカネショウ株式会社、サントリーデジタルマーケティング、数研出版、株式会社誠和、セールスフォース、双日、日鉄ソリューションズ株式会社、ベイカレントコンサルティング、三菱商事、三菱ＵＦＪ信託銀行、八千代エンジニヤリング株式会社、株式会社ユニバース、Debre Berhan University, 信州大学、農研機構、東北大学大学院農学研究科特任准教授、ベトナムタイビン省農業農村開発局、エム・アール・アイ・リサーチアソシエイツ株式会社、江蘇大学、東北大学大学院農学研究科助教、極洋、理研ビタミン、農林中央金庫、北海道、ポスドク（中国）、メタウォーター株式会社、株式会社新潟日報社、株式会社クボタ、アクセンチュア、アイ・ビー・エム株式会社、マイクロンメモリジャパン株式会社、理研ビタミン株式会社、蘇州環優検験有限公司（中国）、中外ラクノス株式会社、ベイカレント・コンサルティング株式会社、ゆうちょ銀行など

応用生命科学専攻

●博士課程　前期課程修了

浅井雄斗、大林広明、岡下悠、岡田大和、川崎創、小玉悠生、齊藤天道、榊原里奈、鈴木涼太、竹林聖純、永尾梨奈、堀井菜摘、松下純平、大内玲奈、川邉悠介、後藤佑理子、高田裕希、蛸井志歩、長南明帆、勅使河原杏莉、長谷川彩乃、堀内多恵、宮本周、柴田佳紀、永井優貴、青木雄一、小黒まゆ、金井塚文音、小林祐子、武田信哉、築舘大輝、平澤花織、藤田岳、三浦佳乃、森萌香

●博士課程　後期課程修了

髙橋祐人、菅野弘基、平川良太

●主な進路

花王株式会社、協和キリン株式会社、群馬県庁、ＪＦＥシステムズ株式会社、株式会社SHIFT, ゼンショーホールディングス、双日株式会社、東北大学大学院農学研究科博士課程後期、日本経済新聞社、農業協同組合、北海道立総合研究機構、国立遺伝学研究所、三洋テクノマリン、医療法人翔仁会 仙台ART クリニック、昭和産業株式会社、明治製菓ファルマ、日本コーンスターチ、大学職員、森永乳業、株式会社ニトリ、日本たばこ産業株式会社（医薬総合研究所）、東北大学農学研究科助教、公務員など

生物産業創成科学専攻

●博士課程　前期課程修了

井田大輝、久慈航平、田代裕登、田村弘明、土屋果織、戸田啓太、半澤瑛一、町屋綾佳、江口祐太郎、大久保拓海、成生練、森瀬太一、張洲誠、秋元宏介、伊藤暉、佐藤雅、鳥海優人、廣住燎亮、山田基生、吉尾柊太郎、加藤千洋、鈴木綾香、兪佳娜、荒木祥多、笠原日菜子、河原塚遥、鈴木眞依、森山由理、山室ひかり、徳沢真那、水田悠帆、山口春菜、渡邊太雅

●博士課程　後期課程修了

武田圭太、塩沢浩太、Mirinthorn Jutanom、境野眞善、Halida Rahmania, 友清帝、鈴木政彦

●主な進路

天野エンザイム株式会社、花王株式会社、キッコーマン株式会社、協和キリン株式会社、霧島酒造、クミアイ化学工業株式会社、日油株式会社、株式会社日本触媒、野村総研、日立製作所、三菱ガス化学株式会社、富士フレーバー株式会社、健康マヨネーズ、宝製菓、焼津水産化学、東北大学大学院農学研究科博士課程後期、株式会社リードケミカル、株式会社クリニコ、救急薬品工業株式会社、日清製粉、扶桑化学工業、丸紅、東北大学、九州大学薬学部、ガジャマダ大学、アクセンチュア、医療法人翔仁会 仙台ＡＲＴクリニック、株式会社新潟日報社、公務員、昭和産業株式会社、大学職員、明治製菓ファルマ、メタウォーター株式会社、森永乳業、株式会社クボタ、株式会社ニトリ、全国農業協同組合連合会、日本コーンスターチ、日本たばこ産業株式会社（医薬総合研究所）など

亀谷壽昭先生を偲んで

東北大学農学部出身で、東北大学大学院農学研究科を兼務された亀谷壽昭先生が令和5年1月16日にご逝去されました。亀谷先生は、昭和39年3月東北大学農学部農学科・植物遺伝育種学研究室を卒業後、同大農学研究科に進学され、昭和44年3月東北大学より農学博士の学位を授与されました。昭和44年4月東北大学農学研究所助手として赴任、昭和58年2月同研究所助教授、昭和63年4月東北大学遺伝生態研究センター助教授、平成3年8月同大学同研究センター教授、平成13年4月東北大学生命科学研究科教授として、環境遺伝生態専攻遺伝子機能制御分野を担当し、平成16年3月停年退官されました。（写真は退官記念祝賀会の乾杯の時）

私（トリキン）は、「世界に一つだけの花を作りたい」と思い、学部4年次植物育種学研究室に所属しました。当時最先端だったプロトプラスト融合による体細胞雑種の作出に取り組みたい旨を指導教官の日向康吉先生にお話したところ、同研究室の大先輩である亀谷壽昭先生を紹介され、当時の農学研究所におられプロトプラスト融合と体細胞雑種の第一人者である亀谷先生のところに弟子入りすることになりました。今で言う副指導教官ですが、当時はモグリで博士課程修了まで6年間片平通いをしました。

亀谷先生からは植物組織培養・プロトプラストの単離法や培養法の「イロハ」から教えて頂きました。また、「匠の技」のみならず、夕方5時過ぎになると「トリキン、ちょっと喉渇いたね。ビール買ってこない」から始まり、研究室で1次会、餃子屋で2次会、屋台で3次会、それから北仙台の仙台浅草に移動して4次会と5次会と、その間、研究者の心構え「諦めてしまったらおしまいよ。出来るという信念を持ってやれば出来る」などの奥義を叩き込まれました。

プロトプラスト融合には亀谷先生が開発したデキストラン法を使いました。世の中一般にはポリエチレングリコール法が普及しつつありましたが、亀谷先生はデキストラン法にこだわっておりました。どうしてかお伺いしたところ、「男の意地」ということでした。ポリエチレングリコール法はタッチの差で先に発表されてしまったので、独自性を出すためにデキストラン法を使っていたようです。亀谷先生から奥義を伝授され、お陰様で私もデキストラン法を用いてアブラナ科植物のプロトプラスト融合を行い「世界に一つだけの花」を作ることができました。その花（キャベツとモリカンディアの雑種）は今でもループタイにして身につけております。亀谷先生の思い出の詰まった私の宝物です。

また、私は、亀谷先生が体細胞雑種の選抜に使っておられた「アミノ酸培地（AA培地）」を用いることによって、さらに亀谷研究室の先輩である内宮博文先生からエレクトロポレーション法のご指導を仰ぐこともでき、世界で初めて遺伝子組み換えイネの作出に成功し、「イネのプロトプラスト培養とトランスジェニックイネの作出」というタイトルで日本育種学会賞を受賞することができました。その原点は亀谷先生にあります。

私は大学院の講義「環境適応植物工学特論」の中で、亀谷先生を毎年紹介し、奥義の一部を学生に教えております。また、「イネの遺伝子組換え歴史秘話ヒストリア」（日本植物バイオテクノロジー学会・設立40周年記念・市民公開シンポジウム）の中でも紹介し、ユーチューブに公開されております。（スライドで亀谷先生のお名前の漢字変換ミスがありました。ごめんなさい。）

令和5年7月29日に「亀谷先生を偲ぶ会」を開催し、昭和時代の亀谷先生のエピソードを話しながら亀谷先生を偲びました。亀谷先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。献杯

鳥山欽哉
（農学科・植物育種学講座、昭和58年卒業）

東北大学農学部同窓会 幹事会報告

東北大学農学部同窓会幹事会は、令和5年7月22日（土）ホテルグランテラス仙台国分町において、12名の出席者を得て開催されました。開会宣言のあと、阿部同窓会会長，鳥山副研究科長（北澤同窓会副会長代理）よりごあいさつを頂きました。

●議事

1．会則第9条に基づき、会長から指名された幹事長および事務局長が紹介された。

幹事長：平川　良太
（動物機能形態学）
事務局長：中嶋　正道
（海洋生命遺伝情報学）

2．令和4年度活動報告について中嶋事務局長より以下の報告があり、原案の通り了承された。

①会報の発行：104号（令和4年9月1日）、105号（令和5年3月24日）
②総会の開催：10月1日(土)仙台「ホテルグランテラス仙台国分町」にて20名参加のもと開催された。
③会議の開催：常任幹事会3回、幹事会1回（16名参加）、幹事会・支部長懇談会合同会議1回
④会員名簿管理：会員異動等に伴う名簿データの変更、卒業修了生からの連絡先登録用紙の集約
⑤支部活動支援：宛名ラベル・データ提供（5件）、通信費助成（3支部）、講師派遣はなし。
⑥会費徴収
⑦卒業・修了記念品（LEDソーラーライト）の贈呈
⑧学内諸団体（萩友会）に関する活動：東北大学115周年ホームカミングデー記念式典への出席，萩友会関連イベント等の会員への周知
⑨その他：HP情報更新、農学部75周年記念事業の会報およびHPの周知

3．令和4年度会計報告・監査報告について会計の平川幹事長及び佐藤会計監査より説明があり、原案の通り了承された。

4．令和5年度活動計画について、中嶋事務局長より「役員の交代」および「学内幹事と役割」の確認と以下の活動案の提案があり、一部了承されたが、会費および総会の開催方法を含めて同窓会のあり方「同窓会を卒業生（特に若手）にとってもっと魅力的なものにするためには」についての多くの意見交換と議論がなされ、学内幹事会で再検討しながら今年度は進めることとなった(6．その他を参照)。

①会報の発行（106号、107号）
②総会の開催　令和5年11月11日（土）東京（会場は日本教育会館）
③会議の開催　常任幹事会3回、幹事会1回、幹事会・支部長懇談会合同会議1回、事務局会議2回
④会員名簿管理：会員異動等に伴う名簿データの変更、卒業修了生からの連絡先登録用紙の集約
⑤支部活動支援：講師派遣、ラベル・データ提供、通信費助成等
⑥会費徴収：前回総会で承認された5年一括納入制度の告知については、今回の幹事会の様々な議論を踏まえ、一旦棚上げとすることとなった。
⑦卒業・修了記念品の贈呈
⑧学内諸団体にかかわる活動
⑨その他
・ホームページの情報更新、Facebookでの情報発信

5．令和5年度会計予算について会計の平川幹事より説明があり、原案の通り了承された。

6．その他

・鳥山副研究科長（北澤研究科長・同窓会副会長の代理）から「農学研究科の最近の話題」について紹介があった。
・会費に関して　年会費の金額・納付方法等について議論があり、継続的に検討していくこととなった。
・魅力的な同窓会づくりの一環として、会長および役員の人選についても議論があった。また、総会において第一線で活躍する同窓生からの講演会などを企画し、Zoomなども利用して多くの同窓生が参加できる様にすることなどを検討していくこととした。まず第1弾として今年度総会（11月東京）にて学校法人酪農学園理事長の髙島英也氏（昭和57年卒、前サッポロビール㈱代表取締役社長から話題提供を頂くことを計画している。

以上

令和5年度 農学部同窓会役員紹介

会長　阿部　敬悦（化56）
副会長　水多　昭雄（農52）
和泉　真理（農58）
長谷川信美（畜48）
三枝　正彦（化41）
大庭　清（食44）
廣野　治子（生30）
北澤　春樹（畜61）
幹事長（在職教職員）　平川　良太（動物平30）
事務局長（〃）　中嶋　正道（水59）
幹事（〃）　伊藤　幸博（農平02）
冬木　勝仁（他大学卒）
小川　智久（他大学卒）
石川大太郎（他大学卒）
千葉　啓嗣（農平02）
在仙幹事　河部　泰（畜39）
千葉　和義（畜平元）
田邉　徹（水平13）
髙島　英也（化57）
正木　恭介（食55）
永沼　孝子（食54）
駒井三千夫（食51）
黒岩　和郎（農60）
髙橋　洋（畜49）
荒砥　悦子（畜62）
内海　和彦（水55）
佐藤由佳子（水63）
小嶋　尚夫（化26）
会計監査　大川原良次（化57）
増岡　直史（植物平14）
淀川　晋一（畜平04）

支部

北海道
会長　對馬　一修（農59）
副会長　安倍　隆（農61）
幹事長　山口　幹人（水60）
幹事　佐々木　賢（畜平03）
監事　佐野　満廣（水48）

青森
支部長　坪田　哲（水47）
副支部長　杉見　研二（畜44）
幹事　小坂　善信（水53）
前田　穣（水平05）

秋田
会長　草彅　作博（畜57）
副会長　金田　吉弘（化51）
髙橋　仁（化57）
幹事　小棚木栄作（畜63）
本郷　正史（農平03）
佐藤　啄哉（応平10）
深井　誠（農平07）

宮城（県農林水産部翠友会）
会長　伊藤　紳（畜60）
副会長　石田　幸司（水60）
及川　克徳（畜61）
監事　木村　和彦（農59）
松原　馨一（農平02）
幹事　駒形　泰之（植生平27）
岩井　孝尚（化平02）
佐藤　紘子（植生平19）
塚本　玲（動物平25）
大野澤真人（海洋平21）
浦郷　宜秀（植生平31）
幹事長　田村　亘（生化平17）
会計　成澤　嘉明（植生平20）

翠萩会
支部長　手島　茂登（生31）
幹事　伊藤　絹子（水53）
永沼　孝子（食54）

石巻・桃生・牡鹿
支部長　吉田　文一（水42）
幹事長　松谷　武成（水51）

山形
支部長　阿部　憲明（農48）
幹事　安達　真道（農50）

福島
顧問　渡辺　捷栄（化35）
片寄　隆臣（食42）
会長　高木　力（化50）
副会長　高野　恵一（畜51）
菅野　秀夫（畜55）
金成　篤子（食61）
幹事　川上　実（化41）
山内　敏美（農52）
戸内　中（化61）
事務局長　宍戸多加志（農51）

つくば支部
支部長　小原　嘉昭（畜41）
副支部長　三浦　克洋（畜41）
宮本　武憲（水42）
太田　寛行（化52）
代表幹事　木元　広実（食平02）

群馬（翠刀会）
顧問　贄田　裕行（農38）
坂本　孟（農33）
高田　式久（化修51）
井上　哲（農56）
会長　吉野　努（農57）
副会長　岸　文雄（畜62）
阿久津良和（食63）
幹事長　桑原　克也（農平16）
幹事　山中　孝雄（食平12）
品田　智隆（農修平21）
金澤　弘晃（応生修平26）
木暮　恵太（応生修平28）
監事　堀込　充（食61）
堀越　英夫（農63）

水産東北会
会長　内海　和彦（水55）
幹事　越智　洋介（水61）
魚谷　敏紀（水平03）

静岡
支部長　和田　卓（水39）
幹事　海野　晃好（畜61）

愛知
支部長　間瀬　民生（化44）
幹事長　中島　羊二（水平04）
幹事　松山　洋茂（農平13）

岐阜
支部長　塩谷　栗夫（畜34）
幹事　小山　博之（化62）

三重
支部長　粟冠　和郎（化52）
支部幹事　粟冠真紀子（化54）

関西青葉会
会長　瀬口　正晴（化45）
副会長　岡田　博文（畜43）
幹事長　河村　立（畜59）
監査役　安田　栄之（化44）

九州
会長　長谷川信美（畜48）
副会長　林　國興（畜院45）
川村　修（畜院46）
幹事　山内　伸彦（畜平元）
高橋　俊浩（畜平06）

萩友会関係
理事　駒井三千夫（食51）
代議員　小川　智久（他大学卒）
廣野　治子（生30）
関東支部代表役員　武永　正人（水57）
太田　寛行（化52）
関西支部代表役員　瀬口　正晴（化45）
河村　立（畜59）
佐藤　勝紀（畜45）
宮城支部　五味　勝也（他大学卒）

Ⅰ　令和４年度会計報告

（令和４年６月１日より令和５年５月31日まで）

一般会計収支決算

収入合計　7,801,240 円
支出合計　4,675,748 円
次期繰越金　3,125,492 円

1. 収入の部

項目	予算額	決算額	差引増減	備考
繰越金	3,780,609	3,780,609	0	令和3年度繰越金
同窓会費	4,200,000	4,020,594	△ 179,406	一般会員1,096件、卒業修了生167件、新入生125件
寄付金	1	0	△ 1	
雑収入	1	37	36	預金利子37
合計	7,980,611	7,801,240	△ 179,371	

2. 支出の部

項目	予算額	決算額	差引増減	備考
印刷費	1,500,000	1,373,625	126,375	会報104号・総会出欠葉書=662,805　105号・会員異動連絡葉書=710,820
通信費	1,200,000	1,066,554	133,446	会報発送代104号=503,479　105号=509,065
備品費	100,000	0	100,000	
事務・消耗品費	300,000	223,353	76,647	会報発送用封筒=185,495　プリンタートナー代=14,168
支部強化準備費	100,000	70,556	29,444	
旅費・交通費	600,000	277,676	322,324	
会議費	200,000	113,208	86,792	
人件費	1,200,000	1,155,235	44,765	会報発送作業料=334,235
建物使用料	110,000	100,441	9,559	
慶弔費	20,000	0	20,000	
卒業・修了生記念品代	200,000	171,820	28,180	
総会補助	200,000	123,280	76,720	
ホームページ関連経費	50,000	0	50,000	
予備費	150,000	0	150,000	
繰越予定金	2,050,611	0	2,050,611	
合計	7,980,611	4,675,748	3,304,863	

3. 繰越金　3,125,492円

上記の通り報告いたします。
令和５年５月31日　会計幹事　平川良太 ㊞
上記決算は適正であることを認めます。
令和５年６月17日　会計監査　淀川晋一 ㊞
令和５年６月17日　会計監査　増岡直史 ㊞

Ⅱ　令和５年度会計予算

（令和５年６月１日より令和６年５月31日まで）

一般会計

1. 収入の部

項目	予算額	備考
繰越金	3,125,492	令和4年度繰越金
同窓会費	4,500,000	
寄付金	1	
雑収入	1	預金利子
合計	7,625,494	

2. 支出の部

項目	予算額	備考
印刷費	1,900,000	会報、異動・総会出欠葉書の印刷関連
通信費	1,200,000	会報、会議案内送付関連
備品費	200,000	
事務・消耗品費	300,000	同窓会封筒印刷料、銀行への支払手数料
支部強化準備費	100,000	支部の総会案内等に係わる通信補助
旅費・交通費	800,000	
会議費	300,000	夏の幹事会、秋の幹事会・支部長懇談会関連
人件費	1,100,000	事務局員アルバイト料・事務局員交通費
建物使用料	110,000	同窓会室の賃貸料
慶弔費	20,000	
卒業・修了生記念品代	100,000	
総会補助	300,000	
ホームページ関連経費	50,000	
予備費	150,000	
繰越予定金	995,494	
合計	7,625,494	

同窓会事務局からのお知らせ

Eメールアドレス dosokai-agr@grp.tohoku.ac.jp

事務局メールアドレスQRコード

●関西青葉会のご案内

中西テツ神戸大学名誉教授特別セミナー

「六甲ガーテンパーティー」

【神戸産オリーブからエクストヴァージンオイルを搾ります】

来る令和5年10月14日（土）午前10時から、農院39卒中西テツ神戸大学名誉教授が運営されている「神戸オリーブ資源研究所（神戸市灘区）」を会場にして、オリーブからのオイル搾汁をしながら、神戸とオリーブとの関係・歴史についてお話をしていただきます。

その後、神戸産無農薬野菜や手打ち蕎麦などを食べながら、懇親会を行います。詳細は青葉会広報ページ（フェイスブック）へ。

◆日時　令和5年10月14日（土）午前10時～午後1時30分

◆所　神戸オリーブ資源研究所（阪急六甲→神戸市バス②系統4分→バス停から徒歩8分）

◆会費　五千円

幹事長　河村　立（畜59）

Tel & Fax　078-581-2101

E-mail　lytz@nifty.com

●会費納入のお願い

このたびの会報に会費の払込取扱票を同封いたしております。お手数おかけいたしますが、お近くのゆうちょ銀行にてお振込いただきますようお願いいたします。また、ゆうちょ銀行自動口座引落登録をされている会員様は12月15日に引落しいたしますので口座に会費のご準備をお願いいたします。振込から自動口座引落への切替も随時受け付けております。

ご希望の場合は手続き書類をお送りいたしますので事務局までご連絡をお願いいたします。

※会費納入はぜひ自動口座引落登録で！

現在、払込手数料は同窓会負担のため、払込方法により手数料が異なり、会費として同窓会に収められる金額も異なってきます。

同封している払込取扱票を窓口で処理した場合の手数料は203円、ATMをご利用の場合は152円、通帳やキャッシュカードで口座間送金した場合は100円となります。自動口座引落登録による振込の場合は55円と最安です。**手数料を抑え送金額をより多くするために、ぜひ自動口座引落登録をしていただき、少しでも多く会費にまわせるようご協力いただけたら幸いです。**

●同窓会会報へのご投稿のお願い

同窓生の皆様から会報への寄稿をお待ちしております。同窓会支部会の報告やご経験なさったこと、お感じになったこと、お仕事に関すること、同窓生に伝えたいこと同窓会や農学部に対するご意見など、同窓会の会報にふさわしい内容をお願いいたします。紙面の都合がございますので、1000字程度を目安としていただき、長い原稿はあらかじめ事務局にご相談下さい。写真は1枚まで掲載可能です。年に2回の全会員への情報発信の場ですので、ぜひご活用ください。

●宛先：dosokai-agr@grp.tohoku.ac.jp（農学部同窓会事務局）

封書等でも受付ております。

●会員情報の変更をお知らせ願います

住所や職場を変更された場合は、事務局までぜひご連絡願います。同封のハガキまたはFAX、メールにてお願いいたします。また、経費節減や速やかに連絡が取りあえる手段として、メールアドレスの登録を奨めております。アドレスをお持ちの方で登録がまだの場合は、事務局宛メールいただきますようご協力のほどお願いいたします。毎年多数の会報が転居先不明として返送されておりますこともあり、ぜひ、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

（事務局メールアドレス：dosokai-agr@grp.tohoku.ac.jp）

事務局メールアドレスQRコード

訃報

次の方々の訃報連絡がありましたので、お知らせいたします。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

広江　光良（水48）　令和2年3月13日逝去
小原　郁子（化28）　令和3年4月20日逝去
加藤　雄一（生28）　令和3年5月31日逝去
板橋　三司（水45）　令和4年1月12日逝去
和田　雄一郎（食平08）　令和4年3月逝去
阿部　和枝（生28）　令和4年8月逝去
米持　十四夫（農37）　令和4年9月27日逝去
河西　辰雄（化32）　令和4年10月28日逝去
玉木　佳男（農平10）　令和4年12月23日逝去
亀谷　寿昭（農39旧教官）　令和5年1月16日逝去
木谷　忍（経済旧教官）　令和5年1月21日逝去
福原　道一（農38）　令和5年1月28日逝去
林　曠（畜36）　令和5年2月2日逝去
伊藤　光郎（水39）　令和5年2月15日逝去
梅津　良逸（化30）　令和5年3月19日逝去
荻原　和夫（生32）　令和5年3月27日逝去
篠原　昭彦（畜35）　令和5年4月6日逝去
阿部　邦雄（化33）　令和5年4月10日逝去
菅野　紹雄（農41）　令和5年4月10日逝去
成田　喜久雄（畜33）　令和5年7月7日逝去
正木　淳二（畜旧教官）　令和5年9月6日逝去

同窓会ホームページ会報閲覧パスワードについて

同窓会ホームページ内の会報の閲覧にはユーザー名とパスワードの入力が必要です。

ユーザー名：aoba
パスワード：midori
となっています。

令和5年度 同窓会総会のご案内

●**日　時**
令和5年11月11日(土)
午後5時00分より

●**次　第**
第一部　特別講演会
第二部　同窓会総会

●**特別講演会**
詳細は下記に記載

●**総会次第**
1. 会長挨拶、研究科長挨拶、来賓挨拶
2. 令和4年度事業、会計報告
3. 令和5年度事業計画(案)　等

●**懇親会(総会終了後、同会場で開催)**
会費：一般5,000円、
学生2,000円

●**場　所**
日本教育会館9階「喜山倶楽部」
〒101-0003
東京都千代田区一ツ橋2-6-2
→セブンイレブン・時計が目印、
一ツ橋ビルの隣
道案内専用電話：
03-3230-2833
総会会場電話：
03-3262-7661

●**交通案内**

◆**電車の場合**
(最寄駅のご案内)
・地下鉄都営新宿線 東京メトロ半蔵門線／神保町駅(A1出口)下車徒歩3分
・地下鉄都営三田線／神保町駅(A1出口)下車徒歩5分
・東京メトロ東西線／竹橋駅(北の丸公園側出口)下車徒歩5分
・東京メトロ東西線／九段下駅(6番出口)下車徒歩7分
・JR総武線／水道橋駅(西口出口)下車徒歩15分

(東京駅からの主なアクセス)
東京駅―(丸ノ内線 池袋方面)―大手町駅―(半蔵門線 中央林間方面)―神保町駅(約15分)

(羽田空港からの主なアクセス)
羽田空港―(京浜急行 品川方面)―泉岳寺―(都営浅草線 押上方面)―三田―(都営三田線 西高島平方面)―神保町(約1時間)

◆**お車の場合**
首都高速道路、代官町・北の丸インターチェンジ
※お車でお越しの場合は、駐車場はございませんので近隣駐車場をご利用願います。

御参加を希望される方は別紙(葉書)もしくは、同窓会事務局宛
【電話&FAX022-757-4070、e-mail：dosokai-agr@grp.tohoku.ac.jp】に、10月27日(金)までにご返信、御連絡ください。

会場の都合により定員を40名とさせていただきます。当日はオンラインでの配信も予定しております。詳細は後日同窓会HP(http://alumni.agri.tohoku.ac.jp/)にてご案内いたします。

＊編集後記

本号の表紙は、本年のオープンキャンパス時の農学部前の風景です。コロナ禍による影響がようやく終息の兆しをみせ、本年は7月下旬にオープンキャンパスがコロナ前の規模で実施されました。農学部としては青葉山新キャンパス移転直後以来、久しぶりに制約なしで多くの高校生やその保護者の方たちが御来学され、在学生の説明に熱心に耳を傾ける姿があちらこちらで見られました。「仙台駅から数分で到着して大変好立地ですね」、「自然が豊かで癒されます。勉強に集中できそうです」などなど、移転時に心配していたことはどうも杞憂であったようです。

この数年間、オンラインでの情報発信の利便性、有用性を強制的に理解することとなりましたが、やはり、面と向かってのコミュニケーションで得られる「肌感」は長く記憶に残るものだと思います。特に現在の修士課程の学生は、コロナ禍で学部時代を過ごしてきました。数年間、何かと制約が多かったですが、このような機会がこれから益々増え、多くの経験を積んで社会に羽ばたいていてもらえたらと心から感じる日となりました。

農学部も80周年が間近となっており、世代間、異分野間をつなぐ架け橋としての同窓会の重要性はますます高まっていくことと思います。同窓生の皆様には、どうぞ引き続きのご支援の程何卒どうぞよろしくお願いいたします。

本号発刊にあたり執筆に御協力を頂きました皆様に心より御礼を申し上げます。

発　行　仙台市青葉区荒巻字青葉468-1
東北大学農学部同窓会
電話 022(757)4070
E-mail：dosokai-agr@grp.tohoku.ac.jp
発行人　阿部敬悦
編集責任者　石川大太郎
印刷所　株式会社センキョウ
電話 022(236)7161

VEGETABLE OIL INK　再生紙を使用しています。

令和5年度東北大学農学部 同窓会総会

TOHOKU UNIVERSITY

日 時｜2023年11月11日(土)
17:00～20:00

会 場｜日本教育会館9階「喜山倶楽部」
東京都千代田区一ツ橋２－６－２

第１部

特別講演会　「東北大学農学部と私 ～今の私を支えているもの～」

演者／髙島英也（学校法人酪農学園理事長）

略歴　福島県伊達市出身、1982年農学部農芸化学科卒業、同年サッポロビール㈱入社、2017年より同社代表取締役社長(～2023年)、現在、㈱東邦銀行社外取締役、学校法人酪農学園理事長　農学部同窓会在仙幹事

第２部

同窓会総会　＜次第＞
1.会長挨拶、研究科長挨拶、来賓挨拶
2.令和4年度事業、会計報告
3.令和5年度事業計画（案）　等

尚、総会終了後、同会場にて懇親会を開催いたします。
懇親会会費：一般5,000円、学生2,000円

お問い合わせ　東北大学農学部同窓会事務局　TEL 022-757-4070
E-mail：dosokai-agr@grp.tohoku.ac.jp